

【表紙】

皆様こんにちは

私は国際ロータリー第 2620 地区パストガバナーの高野孫左エ門です。

本日は、国際ロータリー第 2520 地区 セミナーのお手伝いをさせていただきます。

【自己紹介①】

私は 2012 - 13 年度のガバナー、当地区小野寺 PDG と同期ガバナーを務めさせていただいたこと、小野寺 PDG と同様「ロータリーの公共イメージに関わる地域の役割」を務めさせていただいたことが今回のご縁を頂いたものと思っております。よろしくお願ひいたします。

【自己紹介②】

実は、祖父も父もロータリアンでした。

祖父は私が所属する 1950 年創立の甲府ロータリークラブのチャーターメンバーでした。

父は同じ甲府ロータリークラブのメンバーで 1982-83 年に地区ガバナーを務めました。

ともに、亡くなるその瞬間までロータリアンで、バッジを胸につけ旅立っていきました。

なぜ二人とも生涯ロータリアンだったのでしょうか？

なぜ二人とも後継者をロータリー活動に招き入れたのでしょうか？

この二つの「なぜ」に対する私なりに見出した答えは、吉字屋の 453 年の事業継続を支えてきた価値観と、ロータリーの継続を実現してきた価値観との一致がその答えである、と思っています。それが「奉仕」です。

「奉仕」とは、他者への働きかけであるように見えて、実は自分との戦いであり、結果として、自らに心の「豊かさ」が与えられるもの、言い換えるならば、「利他主義」がもたらす果実の豊かさ、なのだろうと考えています。

ロータリーの標語

「One profit most, Who serves best : 最も奉仕する者、最も報われる」

がまさにその想いを表現していると考えています。

【ロータリアンへの質問】

さて、ここで皆様に5つの質問をさせていただきます。

正解のない質問であり、皆さんが自問自答いただくきっかけとしていただければ幸いです。

☆あなたはなぜロータリークラブに入会しましたか？

→誘われたから、奉仕の機会を探していたから、ロータリーの会員になりたかったから

→入会直後の回答と、一定期間経過したのちの回答の比較をしてみると変化が見え、ロータリーが齎してくれたものが見えてくるのではないのでしょうか

☆ロータリークラブの会員とはどのような人たちですか？

→自ら従事している職業が、所在する地域社会の中で役に立つ、ためになるものとなるよう、日々研鑽努力している人たち。

→日常では交流のない職業人との切磋琢磨を通じて人間力を磨き上げている人たち

→私たちのまわりには、このようなロータリアンでない方々がたくさんいらっしゃるはず

☆ロータリークラブはどのような事をしているのですか？

→上記のような人々が交流することによりお互いに啓発する場として例会を開いている団体

→その人たちが一体となり、地域社会・世界が必要とする事に応える活動を行っている団体

→コロナ禍にあり、新たなクラブの活動方法を摸索することが求められている

☆あなたはなぜロータリークラブの会員であり続けているのですか

→理念と価値観、あるいは奉仕プロジェクトが自らの価値観と一致しているから

→業種の異なる人々との交流が有意義だと感じているから

→自分自身のポジションが確立され居心地が良いから

→クラブの持続的成長を実現するために会員が果たす役割は何かを考え、実行するタイミングにおかれている

☆あなたのクラブを代表する活動は何ですか？

→“この質問への答え”を導き出すことはなかなか難しいと推察されます。

→クラブの歩み（足跡）などを会員歴の長い会員に語っていただく機会、周年事業などでク

クラブの歴史を振り返る機会併せ、クラブが目指す姿を語りながら、代表する活動への興味と関心、更には新たな奉仕プログラム(プロジェクト)の開発に取り組むことが有益です。

5つの問いかけは新会員から経歴の長い会員にも、ともに有効なものと思います。なにがしかの機会に周囲のロータリアンにも問いかけてみてください。

【100年に一度の……①】

さて、今年には日本にロータリーが誕生して100年目を迎えました。
最近耳にする「100年に一度の……」についてお話いたします。

ここ1, 2年で一番耳に残る発言は、トヨタ自動車：豊田章夫社長のコメントです。
100年に一度といわれる大変革の年に直面し、．．． 生きるか死ぬかの戦いをしてい、と変革の必要を表明しておられます。

昨年・今年と自然災害が多発し、各地から多くの被災情報が報道されております。被災された方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。
昨年発刊のタイムズ紙によると、インドは例年、雨期に大きな被害を受けるが、今年は「100年に1度」の豪雨が南部で降り続いている、と報道されました。

そして今年、「パンデミック100年周期説」

1720年:ペスト、1820年:コレラ、1920年:スペイン風邪、2020年:新型コロナ。1920年には当時の世界人口20億人のうち5億人が感染し1億人近くが亡くなられたとの記録が残されています。

コロナと共存しなければならない時代、社会は「デジタル化・非接触型化、利己主義化」への変化が懸念されはじめ、どのように対峙していくのかをしっかりと考えなければならない時に直面していると思われれます。

【100年に一度の……②】

そしてロータリーです。

さて、皆様ご承知の通り、米山梅吉と福島喜三次によって創立した日本初の「東京ロータリークラブ」が生まれてからちょうど100年！！

この節目の年に日本のロータリーはどのように変化していくのか、あるいは変化をしないのか、皆様の所属するクラブの「持続的成長（Grow Rotary）」を実現し、次世代にクラブの思いや願いを継承することができるのか、が問われており、今、そのことをしっかり考えてみる機会に置かれているように思います。

【ロータリーの構造】

現在の国際ロータリーの構造を簡単に整理してみましたのでご覧ください。

国際ロータリーの会員はロータリークラブです。

日本には 2020 年 5 月現在、2,248 のクラブに約 88,162 人の会員が所属しています。世界では 2020 年 6 月現在、36,246 のクラブに約 1,213,465 人の会員が所属しています。

これらのクラブや会員が共有するロータリーの“キーワード”は「ロータリーの目的」「四つのテスト」「中核的価値観」「ビジョン声明」「戦略計画・実現のための行動計画」となります。そして目指す姿は「元気なクラブ」づくり、そして全体で挑戦している「ポリオ根絶運動」です。

この一貫した構造を、国際ロータリー会長が年々「テーマ」を掲げ、全世界のロータリアンの先頭に立ち、計画を推進することになります。

ご承知のように、2022-23 年度には初の女性 RI 会長ジェニファー・ジョーンズ氏が誕生することとなりました。

地区においてその先頭に立ち地区をリードする、国際ロータリーの地区唯一の役員である“ガバナー”は、国際協議会で RI 会長のテーマを学び、効果的な地区運営について考え、ガバナー年度に行動をもってその実現に挑戦することとなります。

クラブは一定数をもって地区を編成し、地区は一年で交代するガバナーによって運営されます。日本には 34 の地区があり、地区内クラブの支援や国際ロータリーの運営にかかわる役割を担います。

地区には、クラブを支援する機能、国際ロータリーの決議に関わる機能があり、35,000 会員を一単位としてゾーンが編成されます。

ゾーンは国際ロータリー理事を選出する単位ですが、現在日本は 1 A、2、3 の3つに区分されています。

ゾーンは理事選出のための区分となりますが、日本では昨年改定される前のゾーン区分を基盤として地域が設定され、地域リーダー、つまりコーディネーターやアドバイザーの活動が行われています。

また、国内のロータリー活動を支援する団体が、ご覧の通り存在し、ロータリアンの、また、クラブの活性の支援を行っていることを確認いただきたいと存じます。

【歴代会長とテーマロゴ】

少し頭を休めるお話をいたします。

これから歴代の R I 会長の顔写真、その年度のテーマロゴをご覧に入れます。

何人の会長の顔とお名前を思い出されましたか？どのくらいのロゴが記憶に残っているでしょうか？

また、あなたが入会した年の RI 会長とテーマ、ロゴを覚えていらっしゃいますか？

思い出していただくきっかけとなれば幸いです。

【歴代会長テーマ・規定審議会】

それでは改めてテーマを見ていただきます。

1974 年以降、3 年毎に開催されることとなった「国際ロータリーの立法機関」である「規定審議会」が開催された年をマークし、規定審議会で決議された、主要と思われる項目を記載してみました。

国際ロータリーは、組織規程をきわめて民主的な方法で定め、その方向性にそった一貫性のある運営が行われています。

また、その規定を変える提案はクラブや地区単位で行えることを改めて確認いただければ、と存じます。

【ロータリーのエッセンス】

2012 年、私が DGE として参加した国際協議会の会場には「Enter to Learn, Go Forth to Serve : 入って学び、出でて奉仕」との横断幕が掲げられていたことを記憶しています。

2014年4月、公共イメージコーディネーターとしての協議会参加のために訪れたシカゴの会場に掲出されていたボードには「Join Leaders, Exchange Ideas, Take Action」と記載されていました。

このメッセージがどのものなのか私は正しく説明することができませんでした。

確認したところ、これは「ロータリーのエッセンス」というもので、ロータリーとは何か、何をしているかとの説明を凝縮した表現だと理解しております。

【国際ロータリーの変化認識】

2015年10月、RI理事会は次に同意したことを表明しました。

ロータリーは時代に追いついていかなければならない

↓

ロータリーは時代に適応しなければならぬ

↓

ロータリーは将来への備えができていなければならぬ

【ロータリーの新しいビジョン声明】

2018年にはRIより「新しいビジョン声明」が発表されました。

ビジョン声明

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指します。

2015年の理事会が同意した「変化認識と変化対応」を進める方針に沿い、

そして目指す姿を示した内容となっています。

英文をご覧ください。

【戦略計画立案の優先事項と目的】

2019年、2019年から2025年までの5年度を期間対象とした新しい戦略計画が発表されました。

優先事項は4つ

- ① より大きなインパクトをもたらす
- ② 参加者の基盤を広げる
- ③ 参加者の積極的なかわりを促す
- ④ 適応力を高める

RI の戦略計画委員会は3年に一度、調査を行うこととされており、ロゴの変更や、戦略計画の変更などはその調査結果に基づいて実施されていることを承知しておかなければなりません。

【歴代会長テーマ・変化対応】

今述べてきた認識すべき変化を、先ほどの歴代 RI 会長テーマの表に合わせたものをご覧ください。

先ず 2015 年の理事会決定事項

続いて「世界を変える行動人」

そして「ビジョン声明」

「新しい戦略計画」

2014 年以降、国際ロータリーは目指すべき姿を明確にし、進むべき道を示し、存在意義と価値をしっかりとしたものにしていくことが伝わってくる表かと思います。

【2020 国際協議会】

さて、前置きが長くなりましたが、2020-21 年を担われる伊藤ガバナー年度の方向性についてお話をさせていただきます。

すでに、伊藤ガバナーより十分な解説があったものと思いますが、重ねて確認を頂く意味で、暫くお聴き取りを頂ければ、と思います。

国際協議会は、国内で開催される 2 回の GETS を終え、年度を共にする全世界の DGE と RI 会長のテーマを学び、いかように地区運営を図るかを語り、考える機会となります。

協議会は、主題となるテーマ講演の後分科会に分かれ学びを深めます。

協議会には DGE のパートナーも参加しますので、分科会は「DGE」はファシリテーションを軸に、パートナーは円卓を囲んでの意見交換が主となります。

世界中から集まる DGE とパートナーが「つながり」を実感し、多くの経験を共有し、ガバナーエ

レクトならではの体験、といえる貴重な機会となります。

【RI 会長テーマ】

2020-21 年度の RI 会長は ホルガー・クナーク氏
ドイツ、ヘルツォークトゥム・ラウエンブルク・メルン・ロータリークラブの会員です。

掲げられたテーマは「Rotary Opens Opportunities : ロータリーは機会の扉を開く」です。

ロータリーが今置かれている社会的な環境を前提に、また、これまで取り組んできた変化対応を前提として次のように語りかけられました。

有機的かつ持続可能なかたちで、いかにしてロータリーを成長させることができるかを考えていた
だきたいと思います。

いかに現会員を維持し、クラブにふさわしい新会員を募れるか。そして立ちはだかる課題に立ち
向かうため、いかに組織を強くできるのか。ポリオ根絶の取組によって世界でロータリーへの認識
が高まっているこの絶好の機会に、行動を起こさなくてはなりません。

太陽が出ているうちに屋根を修理しなければならないのです。

【クナーク RI 会長の問いかけ①】

クナーク会長は講演の冒頭で

ロータリーの成長 (Grow Rotary) に対するマーク・マローニ会長の強い決意を受け継い
でいけることを誇りに思います。

と語られ、次のメッセージを、国際協議会に参加している全世界の DGE に向け発信されまし
た。

有機的かつ持続可能なかたちで、いかにしてロータリーを成長させることができるかを考えていた
だきたい。

ポリオ根絶の取組によって世界でロータリーへの認識が高まっているこの機会に行動をおこさな
ければなりません。

そして具体的に

- ・いかに現会員を維持し、クラブにふさわしい新会員を募れるか
- ・立ちはだかる課題に立ち向かうため、いかに組織を強くできるか

この二つを問いかけています。

【クナーク RI 会長の問いかけ②】

先ず「いかに現会員を維持し、クラブにふさわしい新会員を募れるか」。

私からは「あなたのクラブはそのように思っていますか」と問いかけさせていただきます。

クラブが存在する環境の中で、3年後、5年後、10年後、どのようなクラブを目指すのかをクラブで話し合ったことがありますか？

いわゆる CLP に沿ったビジョン策定と実行計画が、

国際ロータリーで共有される「中核的価値観（奉仕/親睦/多様性/高潔性/リーダーシップ）」に沿って検討されているかどうか検証してみてください。

ただ会員数を増やすことが望まれているのではなく、また、そのような増強をしてもクラブ基盤は強化されないことを確認しなければなりません。

【クナーク RI 会長の問いかけ③】

次に「立ちほだかる課題に立ち向かうため、いかに組織を強くできるか」。

同じく私からの問いかけは「あなたのクラブはそのように思っていますか」。

前のスライドで問いかけた「クラブが目指すビジョンを語り合っているか」との問いかけを行動に移していく際、現況とのギャップを明確にし、そのギャップを埋めるための活動が準備されることになります。

クラブが直面する課題を3つ挙げてみましょう！

その課題解決に向けてクラブは行動を起こしていますか？

貴方はその行動に参画していますか？

【クナーク RI 会長の問いかけ④】

ホルガー・クナーク会長の問いかけの締めくくりとして再度次の言葉を確認させていただきます。

数字を掲げて成長を求めるようなことはしません。

これまで数字を掲げて成長を求めるときに、失敗に終わってきたからです。皆さんには数字にこだわらなかりに、有機的かつ持続可能なかたちで、いかにしてロータリーを成長させることができるかを考えていただきたいと思ひます。

【2020-21 ロータリー賞への挑戦】

さて、目指す姿と実現のための行動計画ができれば、あとは確実に実行を重ねていくだけです。クラブにおいては、クラブ会長を中心としたクラブリーダー皆様の役割となります。

すでに確認されていることと存じますが「2020-21 年度ロータリー賞の目標」が示されています。また、伊藤ガバナーの運営指針においても、その方向性を示されていらっしやいます。

クラブセントラルを開き、設定されている 25 の目標から 13 の目標を選び、クラブの挑戦目標として登録をしてください。

あとは確実に実行あるのみ、です。

25 の目標をみると、新型コロナウイルスの蔓延下、先行きが見えない環境での対応が困難なものもありますが、現段階で取り組みが可能なものを抽出して計画に織り込んでおかれることをお勧めいたします。

2020-21 年度に予定されるガバナー公式訪問は、2020 年 4 月開催の R I 理事会において

「ガバナーがオンライン会議を用いて行うことを強く推奨する」

との決定がなされております。地区内コミュニケーションの手法としてオンライン環境を整備し活用できるよう整えておくことも必要ではないかと思われます。

ロータリー賞への挑戦にも柔軟性が求められています。

自ら考え、目標設定し実行、クラブセントラルを利用して上手く PDCA を回されることを期待いたします。

【ロータリーの醍醐味に触れる①】

最後のスライドをご覧ください。

ロータリアンとして、そのネットワークや多様性に触れることができる機会として、毎年「国際大会」が開催されてきましたが、10 年前からの開催地をご覧ください。

国際大会では多くのセッションが開催され、興味や関心を持つテーマのセッションに参加することができます。日本語の通訳が行われるものもありますので、ぜひ参加してみてください。

【ロータリーの醍醐味に触れる②】

また、国際大会ではいくつかの決議が行われます。

代表的なものは次年度のガバナーエレクトの選挙も行われます。

昨年開催されたハンブルグ国際大会で、当地区の伊藤智仁 DGE は選挙されています。

丸印を付けましたのでご確認ください。

開会式だけでなく、期間中開催されるセッションへの参加をお勧めさせていただきます。日本語の通訳がつくセッションもあります。

ご承知の通り、本年予定されていた「ホノルル国際大会」は中止となりました。

しかし、6月20日～26日の間、バーチャル国際大会の開催が決定し、告知され始めております。オンラインでの国際大会開催は、次年度予定されているガバナー公式訪問や地区行事、クラブにおける会合の開催に対しても、オンラインでの開催推奨が示唆されており、その対応に関するヒントを与えてくれるものと思いますので、ぜひ参加してみてください。

先ほどお話した、国際大会での決議事項である「ガバナーエレクトの選挙」はバーチャル国際大会では行われませんでした。

2019年規定審議会で採択された

19-80 役員の選挙手順を改正する件

国際大会での役員の選出は、すでに RI 細則において最終決定であると宣言されており、大会で役員の選挙を行う形式的手順は不要であり、年次大会の時間と経費を節約するためにも廃止する。

との決議があることから、鈴木俊一ガバナーエレクトの選出は有効に行われている、こととなります。

2021年の大会は台北での開催となります。RI 理事会でその対応は検討されているようですが、現段階での予定としてお知らせいたします。

【最後に】

2020-21年度のRI 会長テーマは「ロータリーは機会の扉を開く」です。

これを受け、伊藤智仁ガバナーは、

「新たなことを始めるのではなく、今在る資源を活用しもっと価値あるものへ変貌させる」

との指針を示し、ホルガー会長のテーマを具体化することを明言されておられます。

先ほど「ロータリー賞」に関するお話でも触れましたように、現下の状況から、なにがしかの工夫を凝らすことが求められることが想定されますが、留意いただきたいことは、クラブリーダーである皆様がこの変化の時に将来像を語り合い、その実現に向けた計画を練り行動に移していくことが大事だと意識いただく、ということです。

RID2520の地区内ロータリアンが一体となって困難に立ち向かい、伊藤智仁ガバナー年度を輝かしい年とされることを心より願い話を終えさせていただきます。

ありがとうございました。